

活動報告

団体名	U.grandma
活動名	「平成30年7月豪雨災害の生活支援及びサロン活動」
活動期間	2018年8月～2019年3月
活動の成果	<p>平成30年7月13日立ち上げ当初は、長期に渡る断水が見込まれ日常生活にも大きく影響をきたす状況だった為、生活に身近な食料配給や支援物資の配給が主でした。また、宇和島市教育委員会からの炊出しコーディネート依頼もあり、活動を行い約30団体の総食数1万1693食を被災地の宇和島市吉田町地域に配布するというお手伝いが出来ました。それにより、大規模災害で混乱していた宇和島市役所の負担が減り被災者と炊出し団体との懸け橋が出来、今後の災害などにも活かすことの出来る経験となりました。8月中旬より順次断水が解消され炊出しも終息しましたが、炊出しの要望は今でも強く、憩いの場所や集いの場所としての役割で炊出しや被災者コミュニティサロンづくりを中心に被災地の自立支援を実施しています。</p> <p>そして、地域の子ども及び高齢者を対象とした（基本、貧困家庭や孤食の子どもを対象とした「子ども食堂」ですが、地域を巻き込んでの活動かつ継続的にしたいので地域のすべての子ども、親、地域の大人など、対象を限定しない）食堂創りや自主防災組織を持った繋がる居場所といった地域の防災意識の向上を目的とした取り組みを行っています。</p> <p>また、他社団体や行政との繋がりを活かし個人だけでは出来ない事も団体を通して支援を募り、すべての団体や個人や行政を巻き込んでのつなぎ役として活動しています。そして、心のサポートも重要視しています。長期化した定期断水（飲料水としての検査をクリアしていますが、手が荒れたり・錆が混ざっている事も多く飲料水として使用している人が少ない現状を聞く）や未来への不安など、心と体が休まらない方々も大勢おられます。その方々の心身のケア、傾聴、イベント企画など、皆さんの心が和み、希望を見いだせるようなサポートをさせて頂いています。イベントや状況に応じた会場費も助成を頂いたため、本団体の役員も宮城学院女子大学名誉教授の畑山みさ子さんを講師に迎え支援者と子どもに接する方の心のケア講座に参加し、学びの場を増やしております。他団体との共有の場ともなり活動しやすくなっています。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>皆様からの寄付により、私たちの団体が活動する事が出来ました。いろいろな方々からの温かい支援は、私たちに活動の力の源ともなっています。今回、いただいた助成金では、炊出しコーディネートだけでなく、独居老人や要配慮者などに物資の配送・管理も行いました。また、被災地でも手つかずの地域もありますが、明るい笑顔になれる時間を過ごしてほしいという思いを込めて、被災地の吉田町中心部で地域創生・産業創生「つむぐ～未来へ紡ぐ宇和島の愛顔」というイベントを行いました。地域のボランティア団体から県外のボランティア団体まで協力していただき、被災地が愛顔【えがお】になれたイベントとなりました。今後は、より良い宇和島となるよう中間支援組織の立ち上げに行政や社会福祉協議会と協力し、行って参ります。被災地の方々に寄り添い、この寄付金を被災地の方が笑顔になり、希望の持てる未来になるよう大切に使用させていただきます。また、短期的なものにならないよう、息の長い支援となるよう、今後も私たち</p>

U.grandma(うわじまグランマ)は、誠心誠意被災地の支援活動を行っています。

(活動のようす)



(第3種郵便物認可)

愛媛

宇和島市吉田町東小路の吉田公民館などで31日、西日本豪雨からの復興イベント「つむぐー未来へ紡ぐ宇和島の笑顔(えがお)」があった。支援団体や地元飲食店による出店、さまざまな体験コーナーなどがそろい、市民らでにぎわった。(4面参照)



宇和島のNPO 吉田で豪雨復興イベント

被災地に元気と笑顔



復興イベント「つむぐ」で展示された被災状況の写真

被災当初から市内で物資支援や炊き出しなどに取り組んでいるNPO「つむぐ」が、「U-granma」と支援活動

被災地の地域と産業の創生を願い主催した。公民館や近隣の広場では

ワイドえひめ

WIDE EHIME

支援団体など出店 踊り・料理 市民ら楽しむ



飲食ブースなどが並びにぎわった復興イベント「つむぐ」

で連携してきた個人やグループ、復旧した店舗などが約40のフードブースや体験コーナーを用意。親子連れらは好みの料理を買い求め、射的や輪投げを楽しんだ。ボランティア活動を紹介する写真や「宇和島をアピルするもの」をテーマにした小学生が描いたイラストの展示、吉田生による合唱もあった。ステージでダンスを披露した住吉小学校4年の藤倉八知さん(9)は「踊りながらは好みの料理を届けた。みんなに元気を届けた。アピーの料理もおいしかった」と笑顔。松島陽子代表は「これからも地域住民や被災者、支援者のつながりを継続し、復興への思いをむいていきたい」と語った。(石田一真)